



まなこ

メディアリテラシーと

ジェンダー



あふれる情報に流されないためにメディアリテラシーを学ぶ …… P.2

現役大学生の考えるメディアリテラシーのこと ジェンダーのこと …… P.4

メディアリテラシーとジェンダー

私たちは、様々なメディアを通じて情報を得たり、近年ではSNSなどインターネットを通じて手軽に発信したりできるようになりました。選択肢が多くある時代だからこそ、「情報を読み解く力」や「発信する際に気を付けたいこと」などについて考えてみませんか。

あふれる情報に流されないためにメディアリテラシーを学ぶ

メディアとの付き合い方を考え、自分の言葉で伝える大切さをメディアとジェンダーの研究をされてきた谷岡理香さんに伺いました。

メディアリテラシーの意味と その必要性

メディアリテラシーとは、新聞・テレビ・ラジオ・SNS・Webサイトを問わず、さまざまなメディアを誰がどういった価値観で発信しているのか、情報を鵜呑みにしないで批判的に考え、メディアを使って自分の意見を述べられるスキルを言います。

日本でメディアリテラシーという考え方を広めたのは、元立命館大学教授の鈴木みどりさんが設立したFCITメディア・リテラシー研究所（1977年設立）でしょう。情報の受け手である私たちが、日々流れてくるニュース、特に政府から伝えられるニュースをどのくらい信用するか。世

界が小さくなり戦争の中継が多くされる中、権力とメディアの危険性を市民としてどう受け取るか、批判的な目で考えることは大事です。

かつて1991年の湾岸戦争において、クウェートの少女がイラク兵士の蛮行について証言をしたことが報じられました。実際は証言した内容のような事実はなくフェイクニュースでしたが、アメリカの世論が少女の証言に反応し、反イラク感情が高まったと言われています。そのようにメディアから得た情報は人々の生活や社会に大きく影響します。

私たちはメディアが発信している情報を鵜呑みにせず、流れてくる情報を市民としてあるいは子どもを守る親として疑い、批判的に考えることが必要です。私たちがメディアが発信している情報を見て、知っているだけの情報なのかを考えられるといいですね。複数の情報源を検索したり、研究者など一定程度社会から信用されているサイトにアクセスする等して確認しないと、まさに間違った方へ流されてしまう危険があります。今の時代は情報量も多く回転が早いので、立ち止まり考える時間が大切です。

メディアが与えるジェンダー観

テレビや新聞を作る現場に女性が働いているでしょうか。テレビ局で働

在京の民放テレビ局女性割合

	日本テレビ	テレビ朝日	TBSテレビ	テレビ東京	フジテレビ	キー局平均
社員	28.5%	23.4%	24.0%	24.4%	26.9%	25.4%
役員	4.3%	17.4%	9.5%	6.7%	3.6%	8.3%
局長	9.1%	21.4%	23.5%	17.6%	12.5%	16.8%
管理職	15.9%	16.9%	16.5%	21.5%	19.7%	18.1%

日本民間放送労働組合連合会
民放テレビ局女性割合調査報告（2023/11/7）在京の民放テレビ局女性割合を編集して作成

です。またメディアは発信者の意図で構成し編集されているので、見えている情報は一面だけだということを理解し、多方面から見て自分で考え調べることが重要です。

SNSなどさまざまなメディアが発達し、個人での発信が容易になった今、メディアを使って社会へ発信する際は責任を持って行う必要があります。

メディアとの付き合い方

感情に訴えるものやネガティブなものほど、インターネットやSNSで「いいね！」などのリアクションをするまでの時間がすごく短いと言われています。例えばSNSで悪気無く、あるいは善意で発信したものが、結果的に誰かを傷つけ、時には

く女性比率を民放労連が調査しました。民放では局の決定権のあるトップに女性が圧倒的に少ないのです。今でも放送局の一般社員は女性が3割に満たないです。

マスメディアではどういう人たちが力を持っているかによって、発信されるニュースが変わります。世の中には色んな出来事があるのに似たような価値観の人たちが同一集団になって制作すると多様性に欠けます。一番大事なニュースは政治と経済の動きになり、巷の生活者の意見や人権に関わるものが取り上げられにくいことが少なくありません。

近年、NHKではトランスジェンダーや障害のある家族を持つ制作者が出演し、当事者性があるドキュメンタリーが増えました。発信する側に多様な立場の人がいれば、色んな角度からの情報が流れていくので当事者性を持つことが重要なのではないかと思います。

また家庭では、絵本や今触れているメディアを教材に子どもとジェンダー観を語り合えたらいいですね。『ふたりママの家』というアメリカのレズビアンカップルが3人の養子を育てた絵本があります。絵本を通して様々な形の家族像を知り、多様な性を理解するきっかけにもなると思います。



谷岡理香さん

たにおか
りか
武蔵大学大学院人文科学研究科社会学専攻
博士後期課程 単位取得退学、テレビ高知報
道部アナウンサーを経てフリーアナウンサーとして活動。2001年より東海大学教員。文化社会学部広報メディア学科教授。2022年よりメディア総合研究所所長。長年にわたり自治体や女性センターなどでメディアリテラシー講座の講師を務める。専門はジェンダーとメディア



「ふたりママの家」
パトリシア・ボラッコ 絵・文
／中川亜紀子 訳
サザンブックス社

語り合うことの大切さ

メディアリテラシーを通して最終的にたどり着くのは、生身の人間が生身で語り合うことの重要性のような気がします。特にコロナ禍を経て、会議もオンラインが増え、北海道や沖縄の人でも距離を超えて参加できるようになりました。それは大きな意義があると思います。オンライン会議では複数で話すとお互い遠慮し、感情を読み取りづらいますが、実際に会うと気持ちの距離が近く、相手を気遣うことができます。オンライン会議はかりだと、人間関係がぎくしゃくしてくることもあります。雑談など一見無駄に見えることでも、実は大事ですね。まさにメディアが発達したからこそ、直接顔を合わせることの重要性があります。色んな人と語り合い、人の意見を聞いて、自分らしい表現を模索し相応しい言葉を獲得していく。自分の言葉は何かを考え、自分の言葉で意見をきちんと伝えられることが大切です。

取材 若林優香／取材文 沼田仁子

座談会

現役大学生の考えるメディアリテラシーのこと ジェンダーのこと

成蹊大学文学部現代社会学科の3年生にインタビューを行いました。インタビューに参加してくれた4人は、昨年度に「メディア・リテラシー演習」という授業を履修しており、むさしのFMでのラジオ番組制作にもかかわっていました。

— 最近は、従来のテレビなどに加えて、SNSなどメディアが多様化していますよね。みなさんは普段、どのような手段で情報を得ていますか？

Y 私はテレビのニュース番組から。あとは、X(旧ツイッター)も多いかな。やはりSNSやネットの方が情報は早いので。まずXでチェックした後、テレビで同様のニュースが放映されているのを見て、情報を確認している感じ。実家なので新聞はとっているけど、私は読むことはないかな。

T 私と同じ。まずXでトレンドを確認してから、テレビのニュースを見るという流れ。ただ、それだけだと不安なので、

スマホに入れているニュースアプリをチェックして情報の信ぴょう性を確認している。

N 私は、Xも含めてネットのニュースはあまり見ないな。テレビが情報源になっている。家族と一緒に、朝や夕方の情報番組を見ている。

S 私はTさんと考え方が似ているかも。ニュースアプリなどの情報源を大事にしている。テレビだと放映している時間が合わないから見られないし、ネット検索だと自分の知りたいことだけを調べてしまうから。

— メディアは、皆さんのジェンダーに関する考えや価値観の形成に何か影響を与えたと思いますか？

— 大学生活で男らしさ/女らしさを強要されたり、意識したりすることはありますか？ また、大学入学以前にそのような経験はありましたか？

Y ジェンダーや社会規範に対する問題意識は、メディア制作側で近年高まってきていると思う。それによって、コンテンツの平準化が起きていると感じる。今って、クイズか動物バラエティ番組ばかり。コンプライアンスに抵触しなさない番組をやっておけば良い、みたいな。正直なことを言うと、最近テレビが面白くなってきた。

N 強要というほどじゃないけど、部活やサークルで「男子は重いもの運んで」とは言っちゃうかな。

S それは適材適所って感じがするし、いいのかなとも思うんだよね。中高生の頃にも、先生が教材を運ぶときに「男子2人来て」と指示を出すことがあった。指示自体は合理的だと思っていたけど、仮に女子が手を挙げたときに断ったら問題だとも思う。例えば、「教材運ぶから2人来て」と、性別を限定しない指示でも良かったのかな。

— ミスコン・リケジョ・女子大生といった、ジェンダーロールを押し付けるような表象や言葉についてどう思いますか？

Y 中学生のとき、体育祭の応援パフォーマンスでダンスをする機会があったけど、なぜか男子だけがダンスの途中で組体操をしなければならなかった。

T 私の高校でも応援パフォーマンスがあったな。その時は、女子がダンスを考えて、男子にダンスを教えるという慣習があった。みんなでダンスを考えればいいのにと感じていた。

— ミスコン・リケジョ・女子大生といった、ジェンダーロールを押し付けるような表象や言葉についてどう思いますか？

T ジェンダーやルッキズムの問題点も考えると、ミスコンやミスターコンはなくした方が良いと思っている。個性をアピールするためのパフォーマンスをする場が変わっていくのはどうかな。ただ、ミスコンの実行委員の友人に廃止の話を持ちかけたことはあるけど、大学の広報的な役割や出場したい人の話を聞いて、形態を変えるのは簡単ではないと感じた。

— 自分が作った番組に関しては、全ての取材に行ったので全休になったときに、削られてしまう箇所が多さに驚いた。



Sさん

Nさん

Tさん

Yさん

N 最近は、リケジョって言葉は聞かなくなったよね。

Y 大学に入ってから、「女子だから、男子だから」と役割を押し付けられる場面が減ったと思う。だからこそ、ジェンダーに関する言葉について考える機会もないのかな。

— なるほど。時代が変わってきていて、言葉や社会的なイメージで分断される機会が減ってきているということですね。

— むさしのFMの番組制作に関する演習を終えて、制作者側になったときに意識や考えが大きく変わったことはありますか？

N 自分たちが伝えたいことのためにインタビューを切り貼りするので、ありのままの情報を伝えている気にはなれなかった。

S 自分が作った番組に関しては、全ての取材に行ったので全休になったときに、削られてしまう箇所が多さに驚いた。



ヒューマンあい だより

●男女平等推進団体の登録・更新について

男女平等社会の実現に向けて活動している市内団体を「男女平等推進団体」として登録しています。団体登録をすると、会議室の優先利用や補助金などの活動支援を受けることができます。詳細はホームページをご覧ください。

TOPICS

ホームページなどで情報発信しています

男女平等推進センター「ヒューマンあい」の取り組みを、ホームページなどで情報発信しています。アクセスしてみてください。



ホームページ



「まなこ」バックナンバー

講座レポート

●文章カトレーニング講座(全3回) ~的確に伝えるコツを学ぼう~

日時>令和6年2月6、13、20日(火)10:00~12:00
場所>市民会館 男女平等推進センター会議室
講師>中村泰子さん(雑誌「くらしと教育をつなぐWe」編集長)



男女平等の視点を交えつつ、わかりやすい文章の書き方からインタビュー・取材・編集のコツまで、幅広い内容を講義いただきました。参加者同士で取材をし、その内容をまとめたインタビュー記事を講師に添削してもらうことで、文章力向上のヒントも学びました。

ヒューマンあい図書室 情報コーナーのご紹介

「季節がわりのテーマコーナー」で、その時々テーマを決めて図書を展示しています。展示図書の中から本を借りていかれる方も結構いらっしゃいます。小さな図書室ですが、思いがけず面白い1冊に巡りあえるかもしれません。是非一度覗いてみてください。



相談窓口のご案内 相談無料 秘密厳守

◆女性総合相談

女性が暮らしの中で抱える様々な悩みについて、女性の専門相談員がお話を伺い、解決に向けて一緒に考えます。夫やパートナーとのこと、家族のこと、職場や学校でのことなど、どんな些細なことでもかまいません。誰かに話すことで、気持ちが楽になることもあります。お気軽にご相談ください。

【相談方法】面接・電話による相談
【相談時間】1回50分/予約制

第1土曜日	①13:00~ ②14:00~ ③15:00~
第2金曜日	①18:00~ ②19:00~
第3月曜日	①14:00~ ②15:00~
第4火曜日	①9:00~ ②10:00~ ③11:00~

◆女性法律相談

離婚・扶養(養育)・相続などの法的な対応や手続きについて、女性弁護士が相談に応じます。

【相談方法】面接による相談
【相談時間】1回30分/予約制

第1土曜日	①9:30~ ②10:10~ ③10:50~ ④11:30~
-------	--------------------------------

【申込み方法】「ヒューマンあい」窓口または、電話にて予約を受け付けます。
【予約電話番号】0422-37-3410(木曜・年末年始を除く午前9時~午後10時)

◆むさしのにじいろ相談(性自認・性的指向に関する相談)

セクシュアリティ全般や性自認・性的指向に関する悩み・相談に専門相談員が応じます。ご本人のみならず、ご家族や支援者の方などからの相談にも応じます。一人で悩まず、まずご相談ください。

第2水曜日	17:30~20:30
-------	-------------

▶電話相談:0422-38-5187 ※予約不要
▶面談をご希望の方はこちらへご予約ください。0422-37-3410

BOOKS 男女平等推進センターの蔵書から貸し出しています!

『32歳。いきなり介護がやってきた。時をかける認知症の父と、がんの母と』

あまのさくや著(佼成出版社)

誰にとっても他人ごとではない介護。必要なのは時間?お金?体力?何よりも必要なのは精神力ではないかと思う。身近な人が弱っていく様を見ているのは言葉にできない無力感と焦燥感にさいなまれる。重いテーマではあるが、ユーモアを交えた文章と漫画のおかげで、ずっと心に入ってくる。時に俯瞰で、時に娘の立場で、細かな病状の記述や素直な心の描写からリアルな介護を感じ取れる。若くして介護に直面した著者と家族の物語には、読み進めるうちに心の荷物がふっと軽くなるヒントが詰まっている。

介護ただ中の人、介護は先の話と思っている人、男女問わずぜひ読んでいただきたい一冊。

[文 羽柴史美]



特集

メディアリテラシーとジェンダー

最後に何を選ぶかは編集している人間なんだと思うと、とても怖いと感じた。

—番組の都合上削る情報があったとしても、制作を進めるうえで気を付けたり、意識していたことがあれば教えてください。

S 削る箇所があったとしても、インタビューを受けた人の意図や真意を大事にするようにしていた。編集の際、ニュアンスが伝わりやすい素材を選ぶように心がけていたと思う。

T 生放送番組で進行を務めていたときは、「こつこついうことを答えてほしい」というような誘導質問は行わないように気を付けて、その場の温度感を大切にしました。

ダルがネットニュースで取り上げられたとき、SNS上での心無い発信を多く見る。もちろん何か思うことがあって、それを友人などに話すことはいいとと思うけど、不特定多数に向けて発信するのってどうかと思う。

T SNSは誰でも嘘を広めてしまう可能性があるよね。

N 私はより一層SNSでの発信を注意するようになったな。誰でも発信できる今の時代だからこそ、みんな一度制作者側に立って考えてみるのも良いかもしれないよね。

—なるほど。リテラシーのある発信者になるには、制作者の立場になって発信を考えることが重要かもしれないですね。本日はお忙しいところ誠にありがとうございました!

「フアンリテラター 秋山茉莉奈」
取材:文 久富明美 秋山茉莉奈



2022年度後期
成蹊大学メディア・リテラシー演習

「メディア・リテラシー演習」はラジオ番組制作をおして、メディアの働きについて考える授業です。2022年度は「大学生活とジェンダー」をテーマに、「リケジョ」「アートDV」「大学のジェンダー平等推進」を扱ったラジオ番組制作し、メディアはジェンダー問題をどのように伝えるのかを考察しました。たとえば「リケジョ」を扱った番組では、「男子は理系」「女子は文系」というジェンダーバイアス(男女の役割にたいする固定的な思い込み)が人びとの自由を制限し、女性を理系分野から排除していることを浮かび上がらせました。これを通じて「メディアはジェンダーバイアスを作り出すこともあるが、一方でジェンダーバイアスを明るみに出し、なくしていく方向に働きかけることもある」ことを学びました。

メディアはジェンダー問題をどのように伝えるのか

成蹊大学文学部 現代社会学科
今田絵里香 教授



武蔵野市立男女平等推進センター「ヒューマンあい」ご利用案内

〒180-0022 武蔵野市境2-3-7 市民会館1階 開館時間:午前9時~午後10時(木曜・年末年始 休館)
電話:0422-37-3410 FAX:0422-38-6239 Eメール:danjo@city.musashino.lg.jp

『まなこ』は文字通り「眼」。人やまちや文化や地球を、男女平等推進の視点＝「まなこ」で見たいこう！という思いで名付けられました。1991年創刊以来、市民が企画・編集にかかわっています。

118号「学び続ける」を読んで

令和5年度第2回「まなこ」サポーター会議が11月8日(水)に武蔵野スイングホールにて開催され、活発な意見交換がされました。

◎本間さんの特集が分かりやすかった。100歳を24時間に例える表が斬新で、自分ごととして考えることができた。

◎男女とも、立場や世代の違う様々な意見が聞けて誰にとっても読みやすいテーマだった。

◎挫折が学びのきっかけになったというエピソードが印象的だった。ネガティブな実体験から学びへとつながるのが、リアルな話として捉えられた。

◎ロールモデルとして読めた。学び始めるのはいつからでもOKという前向きな気持ちになり一歩踏み出せそう。

◎学校へ行くだけではなく、日々の生活の中に学びがたくさんあると気付くことができた。

◎武蔵野地域自由大学の費用面などの情報をもう少し詳しく載せて欲しかった。



◎学びに一歩踏み出せない人の意見も聞きたかった。学んで良かっただけではなく、もっと違う角度からの声もあるのではないかと。

◎学ぶことについて、男女平等の視点をもっと入っているとよいと思った。

〔文 羽柴史美〕

男女平等推進団体活動補助金事業報告

ジェンダー、身近なことから考えよう

日時：令和6年2月23日(金・祝) 10:00～11:30

会場：かたらいの道 市民スペース

形式：参加型勉強会

主催：東京女子大学同窓会幼児グループ卒園父母の会

大人のための絵本の読み聞かせ＋ゆったりトーク

日時：令和6年2月23日(金・祝) 14:00～16:00

会場：武蔵野スイングホール スカイルーム

講師：北川史歩子さん (NPO法人ぐーぐーらいぶ代表理事)

主催：かたらいの会



『まなこ』サポーターの200「ラム」

「メディアリテラシーとジェンダー」

情報に振り回されないために

大坂由香理

メディアは「媒体」「手段」、リテラシーは「識字能力」「知識」の意で、最近ではメディアの種類も多く、手軽に触れることができるが、その分、注意点も多い。作り手側は、不確かな情報を安易に発信せず、受け手の価値観や世界観を形作るという責任を自覚するべきだ。利用者は、情報過多の中、日常的に無意識にメディアの影響を受けていることなどリスクをよく理解して、情報を鵜呑みにしないよう自身の判断力を鍛え、賢く活用する必要がある。

情報が簡単に手に入る時代だからこそ

黒澤友美

ジェンダーにおける無意識な思い込みも、普段触れている情報が影響しているのかもしれない。SNS等により情報を得るのも発信するのも容易になった。媒体によってはレコメンド機能などで、自身が好む情報のみを得られるような仕組みも多い。だからこそその前の情報のみで判断するのではなく、物事の本質を見極められるよう様々な情報を自ら取りにいくなり、偏った考えに至らぬようにしたい。そのためにも、メディアリテラシーを意識し情報と向き合っていきたい。

メディアを作る側が多様になると

中村邦子

子どもの頃は、日経新聞とは「男の人」が読むトランプイナ新聞でした。社会人になって自分が読み始めた頃も、紙面の内容は世の中同様に男性中心なところがありました。読者に働く女性が増えたのが先か、女性の記者が増えたからか、今では仕事と出産育児はもろもろのこと。生理や更年期の話まで目にします。武蔵野市男女平等推進審議会の女性委員の間でも日経面白いよね、と話していました。メディアも女性の参画で徐々に変わりますね。

Editors' Notes * 編集後記



座談会の前は、いまの大学生はいつい何を考えているのだろう...と少し不安だった。しかし話を聞いてみると、みなさん一人一人が問題をきちんと構造的に捉えているだけでなく、それに対する意見や対応策を持っていてとても頼もしかった。媒体は違うけど、同じ編集者としてとても勉強になりました。(秋山茉莉奈)

SNSなど新しいメディアの発達により世界は広がったが、それによるトラブルが問題視されている。改めてメディアとの付き合い方を考えるきっかけになってほしい。(沼田仁子)

小さい頃は、テレビで流されることは全て正しいと思っていた。その時々情報は正しくても後で判明する事実もある。情報の真偽はもろもろだが、自分自身でアップデートしていく力も必要だと感じた。(羽柴史美)

良くも悪くも自分の価値観が、無意識のうちにはメディアから影響を受けていると、感じることは少なくない。『まなこ』に参画する、発信者として、表現の難しさを実感している。(久富明美)

特に近年、スマホを持つようになり、ニュースにSNSなど膨大な情報がすぐに入手できるようになった。情報にただ流されることなく、自分の頭で考えることがより一層大切なのだと感じた。(若林優香)

* STAFF *

サポーター	大坂由香理 黒澤友美 佐々木ルイー 鈴木章 高橋陽美 中村邦子 仁科美由紀
取材・編集	秋山茉莉奈 沼田仁子 羽柴史美 久富明美 若林優香 武蔵野市立男女平等推進センター担当職員
編集協力	栗原毅
表紙デザイン	ふじわりりわ
レイアウト	上田ジュンコ
印刷	シンソー印刷株式会社

『まなこ』は市役所、市政センター、図書館、コミュニティセンター、駅、医療機関、理美容院、大型店舗、金融機関など市内の約490か所に置いてあります。バックナンバーをご希望の方は、男女平等推進センター「ヒューマンあい」まで。

*配布は、公益社団法人武蔵野市シルバー人材センターのご協力を頂いております

市ホームページでもバックナンバーをご覧いただけます。

武蔵野市 まなこ



◎綴じ込み返信はがきで、ご意見や感想をお寄せください。次号は、令和6年7月発行予定です。

生き方・いろいろ・ゆたかな人生～男女平等推進fromおさしの『まなこ』第119号
企画・発行：武蔵野市 市民部 市民活動推進課 男女平等推進センター 2024年3月発行 〒180-0022 東京都武蔵野市境2-3-7 TEL: 0422-37-3410